

ボランティア活動報告書

グループ（ Dry Flowers ）

活 動 日 時	2026年8月25日（火） 13:30 ～ 15:00
活 動 場 所	西宮市立郷土資料館 2階 会議室
出 席 メ ン バ ー	6名
参 加 人 数	1 名（西宮市郷土資料館 学芸員 東原様）
活 動 内 容	【西宮市立郷土資料館の訪問調査・学芸員による解説】 西宮市の歴史や都市発展の変遷、および阪神間モダニズムの源流を学ぶ地域調査として訪問。学芸員の東原様より古い地図や貴重な文献を交えた解説をいただいた。 1. 香櫨園遊園地の開設から閉園、高級住宅地への変遷 ・明治～大正期に広大な遊園地（野球場、広場、ウォータースライダー／ウォーターシュート、茶屋、旅館、動物園、構内人力車等）として華やかに開設。 ・集客減等により数年で閉園へ向かい、サミエル・サミエル土地開発を経て大神中央土地が土地を買収し、再開発。 ・阪急神戸線・夙川駅の開業や甲陽線開通が強力な推進力となり、夙川・苦楽園・甲陽園一帯の高級住宅街形成・阪神間モダニズム発展の大きなトリガーとなった。 ・当時の遺構として、ウォーターシュートの着水池が「内殿池（片鉾の池）」として現在も残る 2. 娯楽・リゾート開発ノウハウの継承と甲子園エリアの発展 ・香櫨園遊園地には阪神電鉄も関わっており、運動場での早稲田大学対シカゴ大学の日米野球戦などを通じて野球コンテンツの絶大な集客力を獲得。 ・この運営ノウハウが、後の甲子園球場・甲子園テニスクラブ、阪神パーク、甲子園ホテル、鳴尾競馬場跡地の活用、浜甲子園の健康住宅開発など、西宮浜リゾート・都市開発へと発展的に引き継がれた。
感 想	・阪神間モダニズムと都市開発の源流： わずか数年で閉園した香櫨園遊園地が、大神中央土地による再開発や阪急「夙川駅」開設を経て夙川・苦楽園・甲陽園へと連鎖し、現代に続く高級住宅街形成の出発点となった歴史に強い感銘を受けた。また、香櫨園での日米野球等のノウハウが甲子園球場をはじめとする西宮のリゾート・スポーツ文化開発に結実していった過程から、阪神間モダニズムのダイナミックな歩みを実感した。 ・生活文化・健康志向と住宅地ブランドの形成： 夙川・苦楽園・甲陽園周辺の宅地開発において、単なる住居の提供にとどまらず最低100坪以上の宅地提供と「日々の生活を楽しむこと」や「健康志向」を掲げ、経済的・文化的なゆとりを持つ層をターゲットに進められた歴史を学んだ。こうした先駆的なライフスタイル提案の積み重ねこそが、現在に続く阪神間の上質な居住環境や洗練されたブランドイメージの礎になっていることを実感した。 ・貴重な歴史資料と学芸員の解説： 学芸員の東原様による丁寧な解説とともに、古い地図や文献を通じて西宮の地形や街並みが徐々に移り変わっていく様子を目の当たりにし、大変興味深く有意義な学びとなった。 ・資料館の果たす役割と次世代への継承： 郷土資料館が単に過去の歴史・資料を保存・展示する場所にとどまらず、西宮市の豊かな歩みとアイデンティティを再認識し、次世代へとつないでいく重要な拠点であることを深く実感した。